

四歳からはソフトの開発.....モチベーションの開発

柳平 脳というものは、段階を追って発達していくものですね。

時実 そうです。人間の脳の発達は、二段階に分けられます。初めの段階は、生まれてから三歳ごろまで。次が、四歳から十歳ごろまでです。.....三歳までは模倣の時期です。神経細胞が、赤ん坊の周囲の環境や親の言動などを、そっくり真似して、回路網を作っていく時期です.....四歳を過ぎると、それまでに作られた回路を自分で使おうとするようになります。つまりモチベーション(意欲)が起きてくるのです。神経細胞がシナプス結合(細胞と細胞との連絡)をして働き出します。創造の時期に入ります。こうして、四歳ごろから開発させるのがソフトウェアです。これは、大脳の前頭葉にあります。

脳の仕組みはだれでも同じ

柳平 近ごろ、日本人は頭がよい、と言われますけれども、人間は、人種によって脳は違うものではないでしょうか。

時実 そんなことはありません。日本人は頭がよいと言われるのは、日本の方がシステム(ソフト)がよいからです。脳(ハード)はだれでも同じです。白人でも黒人でも、脳の仕組みには何の違いもありません。頭がよいとか悪いとかというのは、後天的なもので、環境の影響が大きいのです。

柳平 狼少女(カマラ)などの話を聞いても、生まれてからの環境は、大きな影響力を持っていることがよくわかります。人間でも、狼に育てられれば狼になってしまうのですから.....。幼児の音楽教育で有名な鈴木鎮一先生は、「育て方一つで、だれでも天才になれる」とおっしゃっていますが.....。